

参加者のご意見・ご感想：「全体共有・発表・まとめ」から抜粋

各班の振り返り発表

- [1班] 「避難者がぞくぞくやってくるので、当面受付に防災リーダー2名をあて、体育館内で振り分けた。」 「体育館の西と東のトイレは当面開放することにした。」 「バス旅行者30人は市の方に連絡し、中央公園等に移ってもらった。」 「認知症の方は家族と同室として、一般者とは別の場所に収容し、けが人は防災リーダーが付き添って一中に移ってもらった。」
- [2班] 「配備職員が来る前に避難者がたくさん来たので対応が追いつかなかった。」 「トイレはすぐに使用禁止して、仮設トイレを3つ作って使用することにした。」 「ペットはリードやケージが無いと管理できないので、ケージを備えるべきだ。」 「本部がしっかりしないといけませんが、対応にはかなりの人数が必要だと感じた。」
- [3班] 「体調不良者はとりあえず体育館に収容した。」 「体育館の倉庫の前に受付を設け、避難者名簿があったので、体調を記録するなど細かい対応に努めた。」
- [4班] 「体育館では地域ごとに分けて避難者を収容した。体調不良者と普通の人のゾーニングをはっきりさせたところ、うまく対応ができた。」

防災リーダーの対応・役割

- (1班Oさん) 「本部を体育館のステージに設け、防災リーダー中心に配備職員を配置した。スマホ翻訳アプリを活用して防災リーダーに外国人に付き添ってもらった。」
- (2班Sさん) 「体調不良者を症状によって振り分け別々の教室に収容し、防災リーダーを1名ずつ配置した。」
- (2班Mさん) 「防災リーダーがこれだけたくさん集まれるか疑問だ。」
- (3班IKさん) 「体育館に通路を作ってグループ分けし、各グループに防災リーダーを付けた。」

薬や食料の配布要求への対応

- (1班Oさん) 「非常食はあるが配食はしなかった。状況を考えて対応すればよい。」
- (3班IRさん) 「薬が欲しいなどの個々の対応はできないので、医療対応は早めに一中に移ってもらった。」
- (4班Nさん) 「発災時間が10時なので食料は12時まで配らない。食料を持っている人もいるだろう。」

防災対策課職員挨拶 防災対策課から2名参加していただきました。

- (防災対策課Iさん) 「今回のHUGは自分の地区に合わせた内容でイメージしやすかったのではないのでしょうか。またHUGでは、あの時ああしておけば良かったと思うことが多いですが、それが後で役に立ちます。」
- (防災対策課Nさん) 「HUGであらかじめやっておくと現実的な模擬体験をやることになり、実際に災害が起こったときにスムーズな対応ができます。」

HUG：H(hinanzyo 避難所)、U(unei 運営)、G(game ゲーム)の頭文字を取り、英語で「抱きしめる」という意味です。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられました。

参加者・防災対策課職員・スタッフの皆さま、ご協力をありがとうございました。

